

平成30年度

特例認定特定非営利活動法人はっぴいmama応援団 助成事業実施報告書

独立行政法人福祉医療機構

社会福祉振興助成事業 地域連携活動支援事業

専門職による 妊娠期からの切れ目ない包括的支援事業 実施報告



ママ
ひとりで悩まないで
ママの笑顔
を応援しているよ

専門職による 妊娠期からの切れ目ない包括的支援事業

平成30年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業にて「専門職による妊娠期からの切れ目ない包括的支援事業」を展開しました。

実施期間：平成30年4月～平成31年3月 活動拠点：親とよいこのサポートステーション はっぴいmamaはうす

産前産後妊産婦支援事業

対象：妊婦さんおよび出産後のママと赤ちゃん

- 産前・産後デイケア 日時：ご希望の日 場所：当施設 個室
開催時間：10:00～15:00 (好きな時に来て、好きな時間に帰れます。)
費用：通常、会員6,500円、非会員8,000円が(平成31年3月まで)1回 **2,000円**

- 産前・産後訪問ケア 助産師・保健師・看護師などの専門職が、ご自宅に訪問。
費用：通常、1時間 会員2,500円、非会員3,500円が(平成31年3月まで)1回 **1,500円**

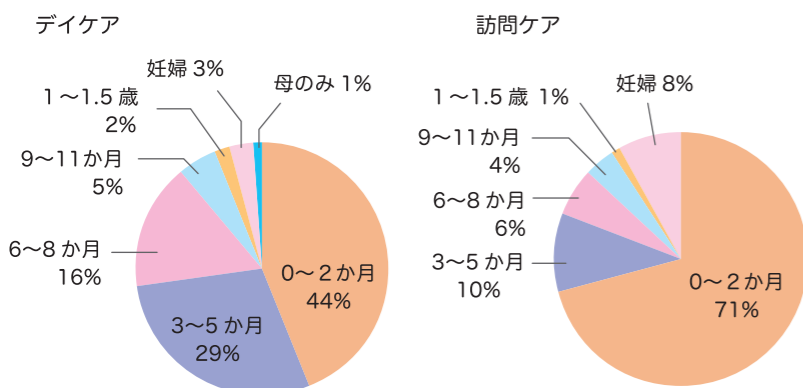
【ケア内容】専門職が、ママと赤ちゃんの状態やご希望に合わせて対応。

- 妊娠中～産後、ママの体調に関する相談(骨盤ケア・食事指導などのセルフケア)
- 精神的支援のための傾聴・カウンセリング
- 赤ちゃんの成長・発達の観察(体重測定など)
- 赤ちゃんのお世話の仕方・抱っこや寝かせ方など育児全般にわたる相談
- 授乳相談(回数・量など飲ませ方、添い乳の仕方や哺乳量測定など)
- 赤ちゃんの沐浴支援、指導・介助 など

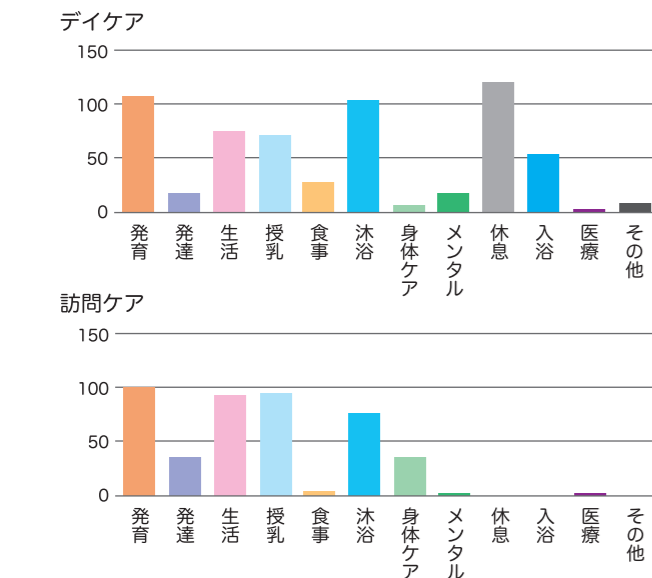
【利用者の人数】

	産前産後デイケア			産前産後訪問ケア		
	実人数	延べ人数	平均利用日数	実人数	延べ人数	平均利用日数
産前	2	4	2.0	10	10	1.0
産後	52	126	2.4	34	121	3.4
合計	54	130	2.4	44	130	2.9

【利用時の子どもの月齢】



【利用者の相談内容】



デイケアはランチ付

保健・福祉・医療機関との連携ケースは、**実人数 合計98件中31件(約31%)**。
デイケア・訪問ケアの両方を利用したケースは**11件**。

●デイケア利用状況

- ・利用回数は、1回～11回。
- ・2回以上利用は54組中27組(リピート率50%)
- ・130件中90件は送迎利用(69%)
- ・妊婦の利用は4件。上の子を連れての利用だった。
- ・母のみの利用の方は、母の体調不良で利用し、児は胃腸炎のため病児保育を利用した。
- ・休息・沐浴や、発育・生活に関する相談が多かった。
- ・医療は、母親の医療的観察・ケアを実施した。

●訪問ケア利用状況

- ・利用回数は、1～22回。
- ・2回以上の利用は98組中12組(リピート率12%)
- ・妊婦の利用は10件であった。
- ・産後2か月以内では沐浴支援の希望が多かった。
- ・発育・生活・授乳に関する相談が多かった。
- ・妊婦への訪問は、助産師が行い、日常生活のアドバイス・セルフケア(体操・さらし、骨盤ケアなど)指導などの身体ケアが主な目的であった。
- ・医療は、在宅酸素療法中の児の観察・ケアを行った。

【利用者の声】

●デイケア

「居場所ができたように感じた。人に優しくしてもらえると自分も家族に優しくできると思った。普段借りれる手もなく、否定的になってしまった心が洗われたよう。お風呂に入って腰痛もよくなった。」

●訪問ケア

「妊娠中から利用させてもらっています。出産や育児に漠然とした不安がありましたが、ここでいろいろ相談出来てまた、産後は訪問ケアなどしていただいているんな不安も解決できて心強かったです。」

妊娠期から相談ができる「妊婦子育てサロン」「妊婦育児相談会」の開催

対象：産前産後の母親(養育者)と子ども、子育て支援者など(興味関心あれば、児の有無・児の年齢は不問)
目的：妊娠期から切れ目なくいつでも相談できる場所の確保。気軽に相談できる場があることで育児不安の増強を防ぐ。母と子が気軽に立ち寄れる居場所を開放し、母親同士の交流を図り、引きこもり・孤立化を防止する。

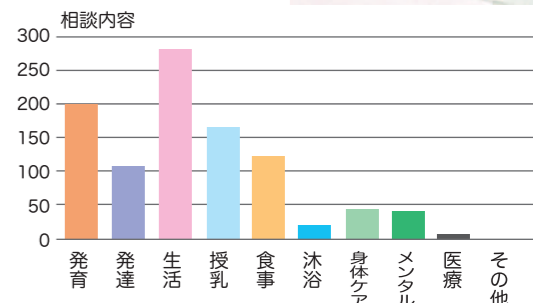
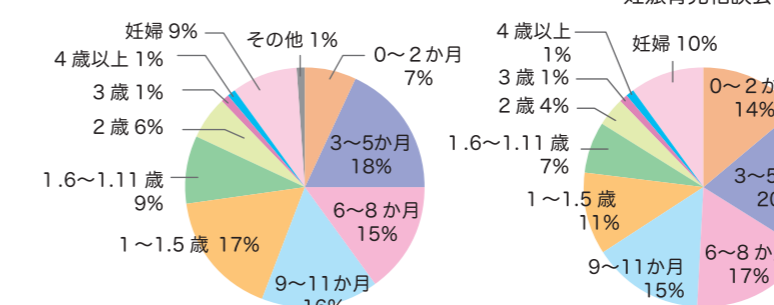
- 妊婦子育てサロン 週4回(月・火・木・金)10:00～15:00開催
出入り自由・飲食自由。子どもを遊ばせながら、母親(養育者)はお茶を飲みながら、他の母親とゆっくりと話すこともできる空間。母親同士の交流の場。希望者には、ランチを提供する(有料500円)

- 妊婦育児相談会 週2回(月・木)10:00～14:30開催
助産師・保健師・看護師が、妊娠期から子育て中の母親(養育者)の相談に応じる。

【開催回数および利用者数】

「妊婦子育てサロン」：年間169回開催 利用者 延べ1527組
「妊婦育児相談会」：年間127回開催 利用者 延べ503組

【利用者の状況】



【利用者の声】

- 妊婦子育てサロン 「みんなで食事できる場所がいいです。他の利用者さんとすぐ仲良くなれます。」
- 妊婦育児相談 「最初は体重が増えずとも心配でしたが、色々教えていただき、母乳の飲ませ方も教えていただいたおかげで上手に飲ませられるようになりました。質問等も沢山ありましたが、ていねいに教えていただき、助かりました。」

妊婦サロン・妊婦イベント開催

●妊婦サロン(妊婦おしゃべり会)

開催回数：年間10回開催 参加人数：延べ28名の妊婦 夫3名

- 【内容】妊婦同士の交流の場の提供。・助産師が同席し、気になることや妊娠・出産に関する相談。
・出産・育児に向けた身体的・精神的変化などの知識提供。・夫の妊婦ジャケットによる妊婦体験。
・「むし歯予防アドバイザーによる歯の話」「マタニティ骨盤ケア講座」「カメラマンによるマタニティフォト撮影会」などとの同時開催。

●妊婦イベント 開催回数：年間1回 参加人数：87組

- 【内容】助産師講座「赤ちゃんグッズの選び方」。
・胎児モデルの観察・赤ちゃん人形の抱っこ体験。
・助産師への妊娠・出産に関する相談。
・夫の妊婦ジャケット着用による妊婦体験。など

【参加者の声】

「妊娠中の悩みを相談できて、自分自身がすっきりしましたし、いろいろと情報を得られたのでとても良かったです。今回の骨盤ケアは絶対に必要だと思うので、色々役に立てて本当に良かったです。」

小児科医による発達相談会

開催回数：年間11回開催。月1回(火)13:00～14:30
参加人数：延べ140組

対象：サロンに参加中の妊婦および産後の母親と子ども
【内容】小児科医(よいこの小児科さとう佐藤勇医師)が、サロン内で成長・発達について母親たちの相談に対応する。保健師・助産師・看護師も共に対応し、育児相談を実施する。



【参加者の声】

「小児科の診察では、子どもの病状の質問をするので頭がいっぱいなので、こうやって改めて小児科の先生とお話ができる機会があることは、とても助かりました。」

主な質問内容

- ・風邪やインフルエンザについて
- ・感染症について
- ・アレルギーについて
- ・メディアとの付き合い方 など

送迎支援事業

自家用車がない、運転が不安などで、自力では外出が困難な母親(養育者)と子どもに対し送迎を行う事で、引きこもり・孤立化を防ぐ。

【実施回数および利用者】年間184件

(うち88件はデイケア利用者。その他は主に育児相談会への参加者)

【主な利用の理由】

- ・自家用車がない。(転勤族・夫が仕事に乗っていくなど)
- ・免許がない・産後で自信がない。
- ・産後も含め、体調に自信がなく運転が怖い。

【利用者の声】

「自宅で母子だけだと時々息がつまるけれど、こちらへ来て普段抱えている疑問を解消でき、アドバイスも頂けてすっきりしました。新たな気持ちで赤ちゃんに向き合えそうです。」

その他 従事者および支援者研修会など実施

アンケート結果（自由記載）

【利用後の感想】

- 助産師さんやスタッフさんに気軽に話を聞いていただけるのでリフレッシュになります。
- 寝ときの抱っこ仕方、寝かせ方など参考になることが多かったため、今後行っていきたいと思えます。
- 不安な事や心配事があれば相談できる環境があるという事が安心につながり、あせる事が減り、のびのび子育てできるようになった。
- アドバイスを実践したら、体がとても楽になった。話をして、これからの不安もかなり減った。
- 笑顔が増えた。スキルアップすることで母の心の安定→子の心の安定につながっている。よく眠るようになった。
- いつも利用するのが楽しみです。イライラせず、ゆったり子供と向き合う事ができます。
- 子どもに対してほめ方、叱り方のポイントが分かった。
- ママはうすを利用するようになってから笑顔が増えたので主人と子どもの笑顔が増えてきました。ありがとうございます。二人で過ごせるようになってきました。
- 心が軽くなりました。周りに赤ちゃんのいる友人がいなかったのこのいう場がありとても支えになりました。妊娠中に知っていて良かったです。

【当法人への要望】

- こういった活動があることをもっと多くの人に知ってもらうことが大事だと思いました。
- 初めて参加してみて非常に満足しました。産後ではなく、妊娠中から知っていればよかったなあと思うので、妊婦さんにも広く知ってもらえるような告知をしてもらえると産後ももう少しリフレッシュして過ごせたかなあと思いました。知人にも紹介しておきます。
- 現在の利用金額より高くなってしまうと少し利用に躊躇してしまうので今後この金額で利用できたら良いなあと思えます。
- 行政などと連携して、利用料の補助などがあるとよいです。

【行政への要望】

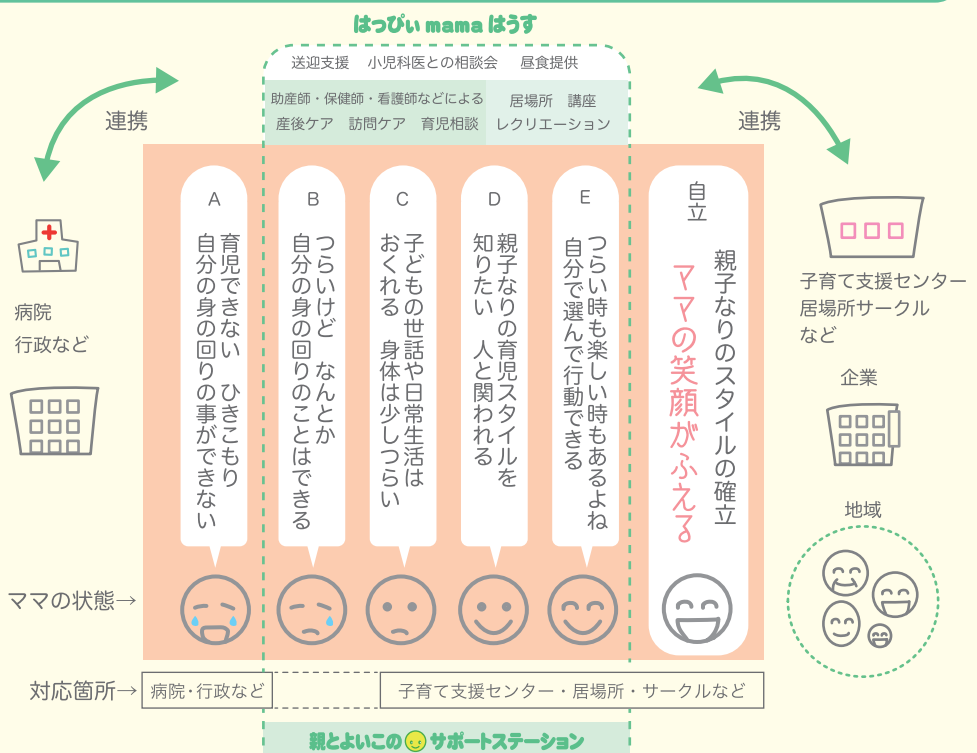
- 妊娠中、子育て中の人々が孤独にならない支援を今後も続けていただけたらとても助かります。
- 同じ事業所が増えるといいです。近くにほしいです。
- 夜間利用できる場所があれば安心です。
- 土日でも利用できる施設が増えるといいです。
- 市の産後マタニティー向けイベントは上の子を連れて（上の子対象の時は下の子を連れて）の参加がむずかしいので、一緒に参加できる空間があるのは嬉しいと思いました。
- 子育て支援の情報が得づらい。（行政主催のもの）講座の定員が少なく、興味があっても参加できないものもある。

小児科医・助産師・保健師・看護師が 地域で手を繋いだ「妊娠期からの切れ目ない包括的支援」

子育て中は誰もが図の A～E を揺れ動いています。

親とよいこの😊サポートステーション はっぴい mama はうす

は、小児科医と助産師・保健師・看護師などの専門職が B・C のような少し辛いママの身体的・精神的なケアを提供できることが最大の特徴です。さらに、居場所や学びの場を提供し、その時々状態に合わせた支援活動をしています。また、行政機関など他の機関とも連携し、地域の中でママの笑顔を支援する活動をしています。



痛ましい事件が繰り返されるたびに、もっと早い段階で支援があれば、あと一歩踏み込んでいけば、予防的視点から関わっていたら、もしかしたら防げたかもしれないと考えてしまいます。

個々の支援者の関わりと、保健・医療・福祉の連携、支援体制の確立が、社会全体で子育てを支え、施策の隙間で困難さを感じながら子育てしている家庭を支援することを可能とします。

NPO 法人はっぴい mama 応援団は、支援体制の構築を目指しながら、母親や家族がどのような気持ちで育児に取り組んでいるのかを大切に、いつでも駆け込み寺として存在する「ネウボラ」を目指して、今後も活動を継続していきます。

日頃より、当法人の活動にご理解とご協力をいただいている皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 31 年 3 月
特例認定特定非営利活動法人 はっぴい mama 応援団

特例認定特定非営利活動法人 はっぴい mama 応援団 代表理事 松山由美子

親とよいこの😊サポートステーション はっぴい mama はうす

〒950-0983 新潟市中央区神道寺 1-5-44 TEL 025-278-3177 (月・火・木・金 10:00~15:00)

mail : npo.hmo@gmail.com HP <https://www.happy-mama-ouendan.jp> <連携団体>よいこの小児科さとう医院
ブログ <http://ameblo.jp/happy-mama-house>

